

平成24年度第4回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成25年2月18日（月） 14時

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員紹介（前回までの欠席委員）
- 3 報告事項
 - (1) 平成25年度企業局各会計予算（案）の概要について
 - (2) 平成25年度事務事業の見直しについて
 - (3) 市営谷地頭温泉の状況について
 - (4) 路面電車開業100周年記念イベント等について
- 4 議 事
 - (1) 函館市交通事業経営計画（第2次）の進行管理について
 - (2) その他
- 5 閉 会

【出欠状況】

■委員（出席12名）

（○は出席，敬称略）

所 属 団 体	氏 名	出 欠	所 属 団 体	氏 名	出 欠
公立ほこだて未来大学	木村 健一	○	函館市榎法華地域審議会	木下 恵徳	○
財団法人函館地域産業振興財団	三浦 汀介	○	函館商工会議所	矢野 一英	○
北海道税理士会函館支部	石黒 正敏	○	函館水産連合協議会	古伏協隆二	
北海道電力株式会社函館支店	品田 聡		函館地区バス協会	工藤 利夫	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	金道 太朗	
函館市町会連合会	岡嶋 一夫	○	一般公募	田中 正博	○
函館消費者協会	大門 春代	○	一般公募	山本 秀治	○
連合北海道函館地区連合会	米坂 章	○			

■事務局（出席23名）

秋田企業局長

- ・ 管理部 中谷部長，林総務課長，鳴海参事，田畑経営企画課長，中村経理課長，中野料金課長，吉岡参事，菊地徴収管理課長
- ・ 上下水道部 鶴巻部長，毛内次長，福田管路整備室長，米田業務課長，船山管路整備室参事，清本管路整備室参事，加保浄水課長，高清水終末処理場長，萬年温泉課長，川村東部営業所長
- ・ 交通部 藤田部長，高坂安全推進課長，石村事業課長，廣瀬施設課長

【会議発言概要】

1 開 会

田畑課長

それでは、本年度、第4回目の函館市企業局経営懇話会を開会いたします。

2 委員紹介

田畑課長

それでは次に、本日の日程に従いまして、前回までの会議で欠席されまして、本日、ご出席いただきました委員についてご紹介いたします。

(略)

3 報告事項

(1) 平成25年度 企業局各会計 予算(案)の概 要について

田畑課長

それでは本日の次第の3、「報告事項」に移りたいと思います。
一つ目としまして、「(1)平成25年度企業局各会計予算(案)の概要について」
でございます。

こちらにつきましては、経理課長の方から報告させていただきます。

中村課長

管理部経理課長の中村です。

それでは私のほうから、今月28日に開会の定例市議会に提出いたします、企業局所
管の4事業会計の平成25年度予算案の概要につきましてご説明いたします。

お手元の資料の1ページをお開きいただきたいと思います。

<資料説明>

以上でございます。

田畑課長

それでは、ただいまご報告いたしました内容につきまして、ご質問等がございました
ら、よろしく願います。ございませんか。

各委員

(質問等無し)

(2) 平成25年度 事務事業の見 直しについて

田畑課長

無いようですので、それでは、二つ目に移りたいと思います。
二つ目は、「(2)平成25年度事務事業の見直しについて」でございます。
こちらにつきましては、総務課長から報告させていただきます。

林課長

総務課長の林でございます、どうぞよろしく願います。

私の方から平成25年度事務事業の見直しについて説明をさせていただきます。
資料の9ページをお開きください。

<資料説明>

以上でございます。

田畑課長 それでは、ただいまご報告いたしました内容につきまして、ご質問等がございましたら、よろしく願いいたします。

各委員 (質問等無し)

(3) 市営谷地頭 温泉の状況に ついて

田畑課長 それでは、三つ目に移りたいと思います。
三つ目は、「(3) 市営谷地頭温泉の状況について」でございます。
こちらにつきましては、温泉課長の方から報告させていただきます。

萬年課長 温泉課長の萬年でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
前回、第3回懇話会においても経過等をご説明させていただいているところですが、本日はその後の状況等につきまして、口頭にてご報告をさせていただきます。
谷地頭温泉につきましては、売却候補者であった株式会社ケーケーエムと11月7日に仮契約を締結し、先の市議会において関連条例の廃止や補正予算等の議決を受け、12月18日に仮契約が本契約となったところでございます。
売却に伴いまして、市営谷地頭温泉の営業は3月30日で終了し、31日に施設の引き渡しを予定しております。
新年度以降の谷地頭温泉の営業につきましては、定休日が無くなるほか、営業時間が午前6時から午後10時、大人の入浴料金が400円と変わります。また、開業日につきましては、現在、まだ未定となっているところです。
次に、施設の改修予定でございますが、食堂の設置が予定されておりますが、こちらの工事等につきましても着手時期等は、まだ現在未定となっております。
また、事業計画において、将来的にはサウナ、打たせ湯等の設置の計画が示されているところでございます。
次に、販売済み回数券の取り扱いについてでございますが、現在まで販売済みの回数券につきましては、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間、払い戻しの対応を取るほか、現在、販売しております420と表記されております回数券につきましては、新たな事業開業から平成26年3月31日まで、1枚につき1回の入浴に利用できることとなります。
これらの情報等につきましては、企業局ホームページへの掲載ならびに市営谷地頭温泉館内にポスター等で掲示し、その周知を図っているところでございます。
また、現在3件に供給されております温泉につきましては、事業計画におきまして、現行の供給量、料金で供給継続されることが示されております。その際、改めてケーケーエムと温泉使用者において契約を交わすものと聞いております。
報告については、以上となります。

田畑課長 それでは、この件につきまして、ご質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。ございませんか。はい、山本委員、よろしくお願いいたします。

山本委員 4月1日からそのまま継続して利用出来るんですか。

萬年課長 継続して利用というのは、営業ということでしょうか。

山本委員 はい。営業です。

萬年課長 現在ですね、3月31日で施設を引き渡しするんですけれども、売却先の開業予定というのは、現在まだはっきり決まっていらないものですから。

山本委員 わかりました。

田畑課長 他にございませんか。

各委員 (質問等無し)

(4) 路面電車開業100周年記念イベント等について

田畑課長 それでは、四つ目に移りたいと思います。
四つ目は、「(4) 路面電車百周年記念事業について」でございます。
こちらにつきましては、施設課長の方から報告させていただきます。

廣瀬課長 施設課長の廣瀬でございます、よろしくお願いいたします。
当市の路面電車は、本年6月29日に、開業100周年を迎えることとなります。企業局では、この開業100周年を、市民および全国へ発信するために、いくつかの記念イベントを企画しておりまして、既に一部新聞等でも報道されておりますが、この場をお借りしまして、経営懇話会の委員の皆様にご報告させていただきます。

 <資料説明>

 以上が主立った100周年記念のイベントでございます。

田畑課長 それでは、この件につきまして、ご質問等がございましたらよろしくお願いいたします。

佐藤委員 はい。

田畑課長 はい。佐藤委員、よろしくお願いいたします。

佐藤委員 新聞等で100周年のことについては見ておりましてですね、特にロゴマーク、すばらしいロゴマークだなと思いながら見させていただいて、さすが木村先生のとこだなと思っ

てて、今日の説明を聞いていたんですけれども、本当に市民に愛される市電という形で、我々子供の頃から慣れ親しんでいた市電が、100年経ったんだなということで、ある意味感慨深いものがある、特に廃止路線のところについては、われわれ年配者がいろいろお話すると必ずこの廃止路線について出てくるんですね。あそこにも走ってたよね、ここも通ってたよねっていう、そういった会話の中でやはり懐かしく思っていました。記念のイベント等については、われわれも昔を懐かしみながらですね、さらに市電が発展出来ればいいなと思いつつ、いろいろと参加させてもらいたいと思っていました。

最近、NHKのドラマで、市電の運転手さんをテーマにして、駒場車庫前がしょっちゅう出てくるという、そういうドラマがあって、大変興味深く観ておりましたけれども、こういう効果っていうのはどういう形で現れるのかなという、私もちょっとよくわからないんですけれども、全国から市電愛好者が各地まわって行く中で、やっぱり函館の市電は必ず乗りたいっていうのはあるみたいなんです。

かなり以前に、そういう方達とお会いして話をしたことがあったんですが、こういうドラマが及ぼす影響っていうのは、なんらかの形で実感出来るものっていうのはあるものなんでしょうか。

ちょっとその辺、なければいけない結構なんですけど、伺いたいんですけれども。

廣瀬課長

はい、数字としてですね、押さえているわけではないんですが、あくまでも乗務員からの報告なんですけど、やはり遠方からいらっしゃったお客様に、あのドラマのあのシーンはどこで撮ったんでしょうかとか、どこの電停あたりででしょうかとか、そんなお問い合せはあるということですので、我々としては、一定程度効果はあるというふうには考えております。

佐藤委員

はい。わかりました。

田畑課長

他にご質問等、ございませんでしょうか。

大門委員

よろしいですか。

記念誌の発行なんですけれども、大体何部位発行する予定か、また、市民の方に発売するということがあれば、大体いくら位とを考えていらっしゃるかどうか。それともうひとつ、その記念誌の中に企業の広告等を入れるのかどうか。

大変苦しい財政ですので、企業の広告なんかちょっと入れたらどうかと考えておりますが、そのあたりのことをお聞かせ下さい。

廣瀬課長

はい。まだ最終的に決定ではないんですが、現段階での状況をご説明させていただきますと、私どものスタッフ、あるいは、手元の資料だけでは、なかなか満足いくものが出来ないであろうというふうに考えまして、外部の機関、つまり民間企業さんの方とタイアップした形で進めていけば、販売も何部と制限しなくてもどんどん作れる可能性があるということと、手持ちの資料、写真などもですね、なかなか私どもだけでは少ないものですから、外部の方に依頼することによって、逆に沢山そのような写真なども集まるであろうというふうに考えております。

それから、販売価格につきましては、サンプル的な本、類似の本を見たところ、1,200円とか1,600円とかですね、大体それ位の価格で販売出来るのではないかとこのように考えております。

田畑課長

はい。それでは木下委員、よろしく願いいたします。

木下委員 私、先ほど聞きもらしたかもしれないですが、50周年、80周年と出しているから80周年以降の記念誌ということなんですけど、その100年の、100年間じゃないですよ、それ以前のもは誰もほとんど持っていないということであれば、その80年間のものをダイジェスト的にまとめたものというのは、挿入されるんですか、されないんですか。

廣瀬課長 はい。100周年という以上はですね、創業時からのものをもろん含めて、やっていきます、ただその情報のボリュームという部分では、80年以降のほうがメインになるかなというふうに考えております。

木下委員 あの、出来るだけ文章なんかよりも、多分、写真をみんな見たいと思うんですよ、そういうのをなんとか手を抜かないで、ある程度歴史を辿れるようなものを入れてもらった方が本当に100年、その中には当然説明も入るんでしょうけれども、なんとかそういうものをお願いしたいと思います。多分、そうすると1冊の値段も、変わってくると思うんですけども、どうせ出すんだったら100年間を網羅した、説明はまた80周年まで出てるんで、それもまた考えながらですけど、僕はね、100年なら100年という切れ目で、出来た時からの写真なんかを特にお願いしたいと思います。

廣瀬課長 はい、そのようにさせていただきたいと思います。

田畑課長 他にご質問等、ございませんでしょうか。

各委員 (質問等無し)

田畑課長 報告・説明事項は以上でございます、ありがとうございます。
引き続きまして、次第の4、「議事」に入りたいと思います。
本日の議事は、交通事業の経営計画の進行管理についてでございますが、我々も今回初めて進行管理を実施し、手探りの状態で進めてまいりました。
このため、委員の皆様におかれましては、意見の提出やとりまとめにあたって、ご苦労をお掛けすることになったのかなと考えております。
このようなことから、本日は、今年度の進行管理の進め方などで、ご意見などがございましたら、今後の参考にさせていただきたいと考えたところでございます。
それでは、三浦会長、進行をよろしく願いいたします。

4 議 事

(1) 函館市交通事業経営計画(第2次)の進行管理について

三浦会長 はい。本日の議題は最初は、「函館市交通事業経営計画の進行管理について」、それと二つ目が「その他」でございます。
それではまず最初の、交通事業経営計画の議題から始めていきたいと思っております。

ただ今、事務局から説明がありましたけれども、今年度、交通事業の進行管理につい

て、我々が企業局の自己評価に対する意見をとりまとめて提出したわけですが、その進め方などについて各委員からご意見やご感想をいただきたいと思えます。

まずですね、この1年やってみまして、私としては、進め方という点では少し慌ただしい感じもありましたけれども、特に大きな問題も無く終了できたのではないかと感じております。会議の年間の開催数も、なかなかこれ以上増やすということも難しいと思えますし、そう考えると、ほぼ妥当な進め方だったのではないかなと思うところがございます。

それから、評価方法についてなんですけれども、前回の会議録を改めて読んでみますと、会議中にご紹介されました意見の中で、今、ちょっと読んでみますが、「交通事業者のみでの実施が困難である、市やその他の関係機関、または、法や制度といった、いわゆる外的要因が理由となって計画の進捗が困難となっている項目については、一度取り組みを中止する、または明確な方向転換を図る等の方法があるのではないかな」といった意見がございました。

進捗管理の進め方に対する意見として、私もこれは取り入れた方がいいのではないかなというふうに思っております。計画を作った時に予定していた内容ですが、交通事業者だけではどうしようもないような、いわゆる外的な要因が理由で進められなくなっているもので、C評価となっている項目なんですけれども、国や市や、法や制度といった、企業局が努力すれば解消できるという理由ではありませんので、私も、計画の進捗管理上は、状況が変わらないからC評価ということでは無く、状況が変わるまで一度中止もしくは休止という形で取り扱った方がよろしいのではないかと思っております。

これは是非、企業局にはご検討いただきたいなと思っております次第でございます。

例えば、具体的にこの前の会議に出たのは、電車の優先信号の話なんかですけれども、なかなかこれは、法的な縛りが厳しいので勝手には出来ない。それでCという評価になってしまっている。そういうのがいくつかある訳ですね。

皆さん、今年度やってみて、いかがでしたでしょうか。感想でも結構なので、何かございましたら、今日は自由に発言していただいて結構です。よろしく願いいたします。

どなたか何かご意見ありませんか。あまり、内容にこだわらずに、色々なお話で結構ですので、今、私が言及したことでもなくてもよろしいと思えます。

岡嶋副会長

それでは、誰もいないようなので。あの記録を自分なりに書かせていただきましてね、率直な感想としてね、電車は市民の大動脈だと。交通のね。ましてや観光客にとっては大きな財産というか、欠かせないものだっていうかね、ずっとこう感じながら読みましてね。叱られるかもしれませんが、外的な要素もありますけども、あまり、その、収支ってことだけでね、そのサイドだけ見るっていうのはね。いや、もちろん見なきゃない、経営ですからね。そういう要因はあるんですけども、それだけにとらわれないうっていうのは、市電をこれからも存続させていく大きな視点ではないのかなと。

今時そんなことを言うのはおかしいよ、という発想もあろうかと思えますけれども、だから、あの要因の中には小さく書かせてもらったんですけどもね。取り組みとしては経営をね、良くしていくという要因はもちろんだけれども、やっぱり市電は交通の大動脈だし、観光客の大きな指針になってるというあたりのところは、いつでも考えながら進めていく必要があるんでないかなと。

感想ですけど、そんなことを思ったりしてました。

三浦会長

はい、どうもありがとうございました。

私は、今の意見には、感じるところがございます。

市電というのは、あまりその短期的な経常収支の中で結論を出すというのは危険であ

りまして、やはりもうちょっと長い目でもって価値をきちんと捉えて行かないと駄目だなと考えております。もっと根本的なことを言うと、この地域にあるいろいろな形の資源の中の、地域資源の中のひとつに間違いなく入るだろうと。そういう視点で見ていくとですね、今は経営が、この先何年かまだ借金返済計画が残ってますから、これをなんとかクリアして、なんて言うんでしょう、まあ、雨雲が通り過ぎるまで我慢するというか、うまくなんとか凌ぐというようなことになるんでしょうかね。やはり現実的な経済の問題が大事なんですけれども、うまくこう工夫してやりながら、もうちょっといろいろな条件、それこそ外的要因が、もうちょっと好転していく日まで耐えていくということがいいのかなというふうに思っています。これは決して将来的に無くしていい資源ではない。そういう点では岡嶋委員と同じ考え方なのかなと思って、聞いてましたけれども。

他に、いかがでしょうか。

木村副会長

すみません。今のお話なんですけれども、今年度明けてからだと思えますけれども、函館市の中心市街地の活性化法の認可を得る予定で今、市の方々、大変な努力をされているところだと思えますが、それが実施されるということになりますと、中心市街地の活性化計画でございますので、その中で達成目標が、数値目標として示されております。

その中に、3つ指標が示されているんですけれども、その一つに市電の乗車数の、乗客数の向上という数値目標が実は示されております。

それで、私も交通部の経営計画の立案に関わっておりますけれども、今、会長からもお話がありました、まだ大変なお金を返している状況の中です、さらに数値目標が、これはほとんど内閣府からの要請だというふうに聞いておりますけれども、非常に、今、お話があったこととは全く違う評価軸で路面電車の評価をしようという動きもございます。

ただ、これはあの、私自身もそうなんです、やはりあの現在の私自身は、観光基本計画の立案を今、新年度もしておりますけれど、その中でも各自治体の中で路面電車の位置付けというのは非常に観光地においては重視されているということを考えますと、やはり一定のですね、企業局全体としての多分、ご努力が、大変に必要なのではないかなと思えますけれども、路面電車事業をですね、市の直轄の事業として、市民もしくは観光客の方たちが十分にこのサービスを楽しむような状況を維持していくべきじゃないかなというふうに強く思うところなんです。

それで外的要因についてなんですけれども、今言ったようなこともひとつの外的要因として作用しますし、非常に企業局の中の交通部として、解決出来ない問題というものを抱えながらやっていかなければならないということは、やはり、この場ではぜひ共有させていただいて、その上での評価、進行管理ということをしていくべきではないかというふうに思っています。

ここでかなり議論しても、この場は経営懇話会ですので、他の要因についてなかなか議論するのが難しいんですね。

ただ、そこをやはり何とか事業が順調にいくようにという声は、この場からぜひ上げたいなというふうに考えているところです。

三浦会長

はい、どうもありがとうございました。

どなたか他に。はい、どうぞ。

石黒委員

私は交通事業は、非常に多大な投資をこれからも伴っていくものだと思います。

また、バス事業の累損という意味では、解消されつつあるんでしょうけれども、企業債の発行というのは非常に私、興味持ちまして、これはむしろ増えている方向である。

つまり、これからも非常に長い先、こういうもののお世話になっていかなきゃいけないだろう、あるいは累積すると相当な金額にもなっていくはずだと。そういう意味では、どうしてもこの交通事業の事業というものの、永続性が担保されなければですね、非常にいけないと思うので、私はその絶えず、やはり事業の改善については神経を払う必要があるだろうと、そういう意味では、この進行管理は非常に重要なものであると思いますので、どうぞ継続していただきたいと思います。よろしくお願いします。

三浦会長

どうもありがとうございました。
他にどなたかご意見ございますか。はい、木下委員。

木下委員

あの、昔は若い者だったら、みんな18になったら免許取って車買って乗り回して、今、そういう年代が免許も取らない人もいるし、車を買わないという人も出てきて、中にはレンタカーを借りる人もいるし。そういう時代でもあるんで。これから車が減るっていうことはなかなか考えられないんですけど、逆に1人で2台も3台も持っていて車が増えてるのかな。一家に1台の時代が数台になって増えてるんであって、若い者がみんな車乗ってる時代じゃなくなってきたっていうような行動もあるんでね。なんとかこれを維持していかなきゃならない。

そして、さっきから会長も副会長も皆さん同じ想いなんでしょうけれど、収支ばかりでやったら、それが一番手っ取り早い訳ですよ、それだけ言ったら。しかしあの、函館市っていうものを考え、観光を考え、いろんなことを考えていくと、企業局の電車の収支はあんまり良くないかもしれないけれども、その波及効果、観光客が電車に乗りたいために訪れるとか、そういうのは数字に出てこないんですよ。企業局の収支には、やっぱりそういうのも考慮していかないと、波及効果も。この100周年を機会にますます宣伝につとめてとかっていうこともあるでしょうけれども、そういうのもあるんでね。本当に会長、副会長と同意見ではあるんですけど、収支ばかりやってないで、波及効果っていうのもどれだけあるんだっていうのを一度、さっきはこの場所が出てるのどこですかって聞いて、やっぱり効果あるんじゃないんですかっていうようなお返事があつたんですけども、そういうものも、自然な観光にどれだけ役立っているのかっていうのも、これもあの検証っていうか、どう言えがいいんだろ、どの位、こう、観光に、電車には乗らないけれども、観光に役立ってるのかっていうのも考えて、違う方面にはいろいろおっしゃって下さる方々にはそれも考えていただきたいなって。

それからあの、やっぱり今年1台新しいの買うんでしょ。古いのもいいけど新しいのもいいんで、そういうのの資金導入ってのもあるとやっぱり企業債も出さなきゃならないのかなとは思いますが、でも段々と目標に近づいた返済。マイナスがだんだん減ってきてるっていう状況が、それが変にならないように、収支を考えつつも収支以外の効果っていうことも、考慮していかなきゃないだろうと思います。

三浦会長

はい。どうもありがとうございました。他にございますか。

岡嶋副会長

いいですか。今のお話を聞いてましてね。この、全国的に電車、いろんなところ走りますよね。それでうまくいってる、黒字でいってるのところって勉強不足でわかんないんですけども、あるんでしょうか。

いや、答えじゃなくてね。たぶんきついのはきついでしょうから。例えば何年前に長崎に行った時、100円電車がどんどん走ってる。乗りやすっていう印象があるし。広島あたりも結構ね、スピード感あるっていう。あるんですけども。出来ればそっちの方に1回位行って、見学でもしてみたいところですけどもね。何かそういう資料み

たいなものがね、手元があれば、これからの育てていくための議論を出来るんでないかなど。

藤田さん、どうですかね。すみません。

藤田部長

先ほどの資料に関しましては、全国の路面電車の事業者って言うんでしょうか。その集まりがございます。その中で収支の状況とか、例えば電車の車両数何両持ってるとか、そういうのもみんなで共有しているものがございますので、何かの機会に皆様に資料を提供させていただければと思います。

それで、黒字の事業者はあるんでしょうかということですが、ございます。ちょっとろ覚えなんですけど、前年度で5事業者はあったかと。全国で、今、19事業者、函館も含めてございます、その中で5事業者は確か黒字だったかなというふうに覚えてます。ちょうど委員がおっしゃられたように広島や長崎は大体黒字で来てると思ってます。

三浦会長

はい、どうもありがとうございます。はい。

木村副会長

先ほどあの、木下委員からもご指摘あったんですけども、多分、収支はここで数字で出てるもの、もちろんあるんですけども、よく経済効果っていう手法で積算するっていう方法もありまして、これは一定の積算方法があるものですから、例えばですけども収支外のそういった効果について、やっぱり市民の方には、今回の経営の懇話会でするので、そういう中でも示していただけると、なんとなくのその、いろんなお話を聞いていいねっていうのは、新聞とかでそれが放送も全国でやってて、非常に大きいっていうのは何となくわかるんですけども、市民に対してもう少し説得のある数字を示せばいいなとは思っております。

三浦会長

はい、ありがとうございます。

この市電の経済波及効果っていうのはかなり大きいと思うんですよね。例えば、私のところで今やってますクラスター事業ですが、がごめという海草があるんですけども、これが5年位の間で、累積で今、50億とかそれ以上になってますけれども、その経済波及効果という、産業化連関分析という手法があるんで、そんなのでこうはじいてみますと、150億位の経済波及効果があるんですよ。多分電車もそういう波及効果は、木下委員が言われたような話は、かなり実態はきちんと調べればわかるような気がしますね。

それと、あと、私の感想ですが、函館には市電が似合うと。こういう市電がですね、住民や観光客に利用されているような、そういう景色がですね、函館には似合っている。そういう街になって欲しいと。私の想いがあります。

それで、どうしてその辺がなかなか経済面でうまく追いついていかないかっていうのは、まあその辺はちょっといろいろな問題はあるんですけども、大胆に言ってしまうと、そこに定住している人口、もしくは旅行者みたいな外部から来る人口の数というのはかなり大きな問題だろうと。それが利用者につながる人口の数が、やはり少なければですね、当たり前の話ですけども、経営が大変だと。

一番端的な話で言いますと、私が最近見た例で。昨年かな。香港に行ってきたんですけども、あそこはですね、東京都の2分の1の面積に700万人ですから、東京都の人口の約6・7割位の人口がいるわけですね。そこに2階建ての、イギリスのロンドンなんかと同じような電車です。全部2階建ての電車。あれが待ってるといくらでも来るんですよ。要するに、電車と電車の間隔がせいぜい50メートルか100メートルしかない。だから、エスカレーターに乗ってるみたいな状態で、いくらでも来る

ので待つ必要がない。それで値段が確か30円位だったんですよ。そういうような、香港は行って見てわかりますけれども、巨大なコンパクトシティですね。ああいう条件の街では、電車は間違いなく交通機関として有効なんですよ。自動車なんか乗ってたら大変ですから。そういう意味では、函館の街は自家用車の文明というのが、凄くある時期から広がったというか、それが郊外にいろいろな大型店舗が出来て、そういう物を買出しに行ったりするようなライフスタイルに変わりつつある、あった時代に、電車の、先ほどどなたか言ってましたけれども、私も学生時代に乗ってましたから今失われた路線何箇所か覚えてますけどね、ああいうところは無くなっていったわけですね。そういうような背景を理解しながら、どういうところでバランスのいい、経営も成り立つ、それを使う人達のライフスタイルも満足度が得られるものにしていくかという、まさに木村先生がいらっしゃいますけれども、都市計画の話ですね、これは。その中で考えていかないと。一番いい規模の電車の使い方みたいな。まあ観光客に期待出来る部分はもちろん大きいんですけども、我々、住んでいる定住人口がきちんと使うという仕組みもないとなかなかこれは難しいわけで。まあそういうふうにと考えると函館の将来は、どの位の車両がどの位の地域をカバーしたらいいのかなということになるんですが、それを選ぶのもですね、地域市民のライフスタイルの求め方なんですよ。

我々、今後どういう、例えばここにいる我々みんなもういい年ですけども、老後を求めるかっていうことでも変わって来ます。間違いなく私もあと10年は、自動車の免許を持っていていいと言われるのか、そろそろ免許取り上げられる年齢になるんですよ。そうすると、早く電車が動いてる範囲の中の安いマンションでも移りたいなと思っているんですけども。そういうようなライフスタイルがうまく電車に合っていないと、電車の経営っていうのはなかなか難しいな、というのが私の感想ですね。

ちょっと長くなりましたけれども、私の感想を言わせていただきました。
どなたか何か他にございますか。

各委員 (意見無し)

三浦会長 特にございませぬようでしたら、一応まあこの議題はここまでということにしたいと思ひます。

それでは、今後の進行管理を進める上で、今日出た意見を役に立ててもらいたいと思ひますので、それでは次に進めたいと思ひます。

(2) その他

三浦会長 次の議題は「その他」の議題でございませぬが、何かございませぬらいただきたいと思ひます。何かございませぬか。

はい、どうぞ。

木下委員 本当はさっき、記念イベントの時に言えば良かったんですけどもね。これを読んでみたらイベントっていくつかあって、まだこの他にもたくさんあるんですね。

廣瀬課長 そうですね。

木下委員 もし載ってたらそれでいいんですけど。あの、写真展。市電のフォトコンテスト。そういうの何かあるの。

廣瀬課長 はい。一応、計画しています。

木下委員 してればいいです。

廣瀬課長 はい。しております。

木下委員 というのは、結構、写真マニアも関心を示すし、それから電車マニアも関心を示す。そして、コンテストやる時に基本、企業協賛得やすいんですよね。商品なんかみんな出してくれるし、案外お金かかんないで出来るっていうのは聞いてたもんで。イベントの数がこれだけだから、他にも何かあるのかなと。出来ればこういうふうには、イベント、大ざっぱにこんなのとこんなのとこんなのありますよって教えてもらえれば、なお親切かなと思いますけど。

三浦会長 その辺、事務局よろしく願いいたします。また、ご検討下さい。特にございませんか。その他の。この際、何かありましたら。

各委員 (特になし)

三浦会長 特にならなければ、それでは事務局の方にお返しします。

田畑課長 それでは、私どもの方から、次回の会議の日程についてお話をさせていただきます。今回は平成25年度となりまして、第1回目を6月か7月頃、そして第2回目を10月頃、第3回目を翌2月頃ということで、全部で3回の開催を考えております。今日いただきました大変貴重なご意見、ありがとうございました。交通事業の進行管理等につきまして、進め方など、改めて局内で検討させていただき、状況によっては今年と同じの4回の開催になることも想定されますので、ご理解とご協力をよろしく願いいたします。詳しいことは改めて、平成25年度第1回の懇話会にて、ご説明申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。事務局からは、以上になります。

三浦会長 はい。それでは、今回は25年度の第1回としまして、6月か7月頃に開催するというのでございます。ということで了解いたしました。それでは、議事は以上となりますので、事務局の方へお返しいたします。

5 閉 会

田畑課長 それでは以上をもちまして、平成24年度としては最後の開催となりましたが、第4回函館市企業局経営懇話会を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。